

7月は福岡県同和問題啓発強調月間です

かけがえのない命が輝く まちづくりをめざして

市民意識調査の結果から

毎年7月は福岡県同和問題啓発強調月間です。同和問題(部落差別)の解決のために、県をあげた取り組みが行われます。今号では、令和2年度に実施した「八女市人権問題に関する市民意識調査」の中から、同和問題に関わる質問項目のうち2項目の結果をお知らせします。

同和問題(部落差別)とは

同和問題は、日本社会の歴史的過程の中で形づくられた身分的差別などにより、一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低い状態に置かれることを強いられ、同和地区と呼ばれる地域の出身者であることなどを理由に結婚や就職など日常生活の上で差別を受けるなどしてきた、我が国固有の重大な人権問題です。

生まれた場所という本人の意思や努力ではどうにもならないことを理由に、不利な扱いや差別的な言動をすることは決して許されません。

市民意識調査の概要

● 調査期間 令和2年6月23日(火)

7月31日(金)

● 調査対象 令和2年6月1日現在の住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の市民3千人(うち回答者1343人)

◆ 問「同和地区住民の人権に関することで特に問題であると思うもの」について(左ページ上表参照)

問題であると認識されている上位3項目はいずれも、同和問題解決のため教育や啓発を通して取り組まれてきた課題です。これまでの取り組みの成果として、市民の問題意識となつて定着した結果と言えます。

また、近年新たな課題となつている「土地や住居等の取引の中で同和地区かどうかを調べる」、「同和地区住民全体を誹謗中傷する発言や落書き」、「インターネット上

に部落差別を助長する情報や書き込み」については、前回調査(平成27年)よりも問題であることとして市民の認知度は高まっています。

◆ 問「同和問題を解決するために重要だと思う施策や取り組み」について(左ページ下表参照)

選んだ人の割合が最も多かったのは「同和問題に関する教育で正しい知識を教える」で、次いで「わざわざとりあげないで、そっとしておく方がよい」となっています。いわゆる「寝た子を起すな」論に当たる「そっとしておく方がよい」は前回調査に比べ6ポイント減少しています。

「そっとしておく方がよい」という考え方は、差別を受けて苦しんでいる人に、「日にちが薬ですよ」

市民の集い2021 講演会 録画配信のご案内

● 内容 = 7月1日(木)開催の「歴史の中の人権～ケガレと日本人～」講演録画(講師:作家・井沢元彦さん)

● 配信期間(予定) = 7月12日(月)～7月25日(日)

● 視聴方法 = YouTube 講演配信専用チャンネル(限定公開)



※視聴申込が必要です。詳しくはホームページ等を参照ください。

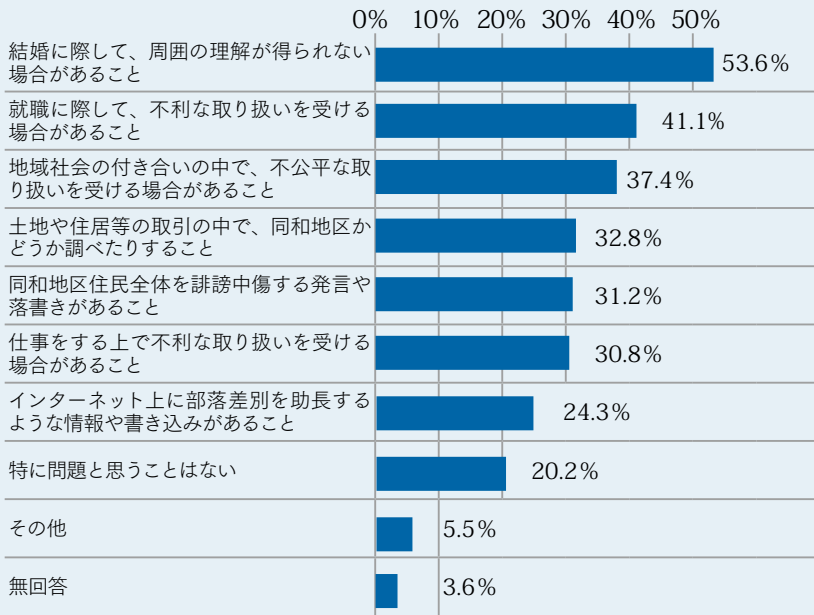
● 問い合わせ＝人権・同和政策・男女共同参画推進課(☎ 23・1490)

と言っているようなものです。あなたが当事者だったら何もしないままで待てますか。長い期間を経て受け継がれた偏見や差別意識はそっとしておいても自然になくなるものではありません。一人一人が正しい認識を持ち、正しく判断し、正しく行動することが大切です。

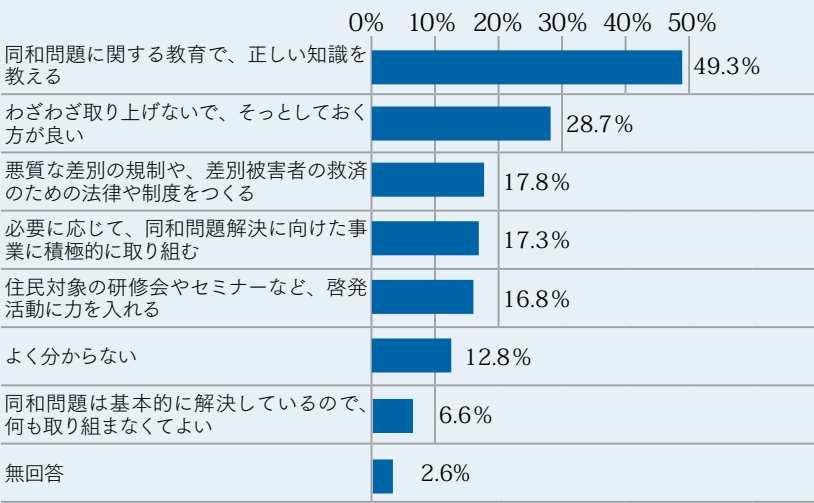
人権教育や啓発の成果として、今回の市民意識調査では、どの人権問題でも「特に問題と思うことはない」と回答した人の割合は前回調査に比べ減少し、問題点を回答する人が増えており、人権問題への意識の高まりがみられます。今後さまざまな人権問題の解決をめざし、人権教育や啓発に取り組んでいきます。

※市民意識調査の結果は「人権問題に関する市民意識調査結果につ

問「同和地区住民の人権に関することで特に問題であると思うもの」



問「同和問題を解決するために重要だと思う施策や取り組み」



※アンケートは「複数回答可」としています。

いて」として八女市ホームページに掲載しています。(八女市図書館・分館でも閲覧できます)

◆部落差別解消推進法の施行から5年

平成28年12月に部落差別解消推進法が成立・施行されました。この法律では、インターネットの普及などにより形を変えながら部落差別が今なお起きていることを踏まえ、そつとしておいても差別はな

くならないこと、教育・啓発で正しい知識を得ることの大切さが明記されています。

私たちは皆、生まれながらに等しく基本的人権を持ち、かけがえのない個人として尊重されることを世界人権宣言や日本国憲法により保障されています。しかし、残念ながらそれを侵害するような事象が後を絶ちません。

差別とは、見ようとしなければ

見えず、正しい学びによって見抜く力が身に付きます。同和問題について学ぶということは、あらゆる人権問題に通じる大切な権利と責任を学ぶことでもあるのです。

この同和問題啓発強調月間が、改めて一人一人が同和問題に関する理解と認識を深め、「解決への道」を踏み出す契機となればと思います。

コロナウイルス感染を責めない社会に

新型コロナウイルスに感染した人が、罪悪感などから自らを責め、精神的に追い詰められてしまう事案が発生しています。

新型コロナウイルスは、どんなに注意していても、感染したり感染させてしまったりする可能性があります。誰が感染しても不思議ではなく、感染すること自体に非はありません。もしも感染しても、どうか自分を責めないようにしてください。

また、感染した人が安心して治療に専念できるよう、「感染者にどこか落度があったのではないか」といった偏見を持つことなく、回復を祈り励ましの言葉をかけ合える社会を共に築いていきましょう。

